



て光重は病に倒れる。その志を継いだ息子の光忠（吉左衛門）が、地域の人々と力を合わせ難工事に敢然と取り組み、遂に親子二代三十年余をかけて「牛川堀」を完成させた。

劇はこの佐原親子を中心とした史実に光を当てながら、現代のある一般家庭の状況をそれにオーバラップされる形で展開する。そして先人が何を考えて行動したか、それが現代にどう生きているかを浮き彫りにし、「牛川堀」の築造と現代社会に横断する安易な地域開発とを対比させながら、「本当の地域づくりとは何か」を問い掛ける。

創作劇「水、流れざれば」は平成三年一月二十二、二十三日に福島県文化センターで開催された「物語のあるまちづくり交流大会」で発表され大好評を得た。その後三月一七日には町民体育館で上演。数多くの町民の前で、活動の集大成を発表してみせた。

「芝居という手段を使って、埋もれた町の歴史に光を当てて町の個性を引っ張り出せたら、と思うんです。私たちの町にはこんな人がいたんだ、と町を誇りに思えるような、そ

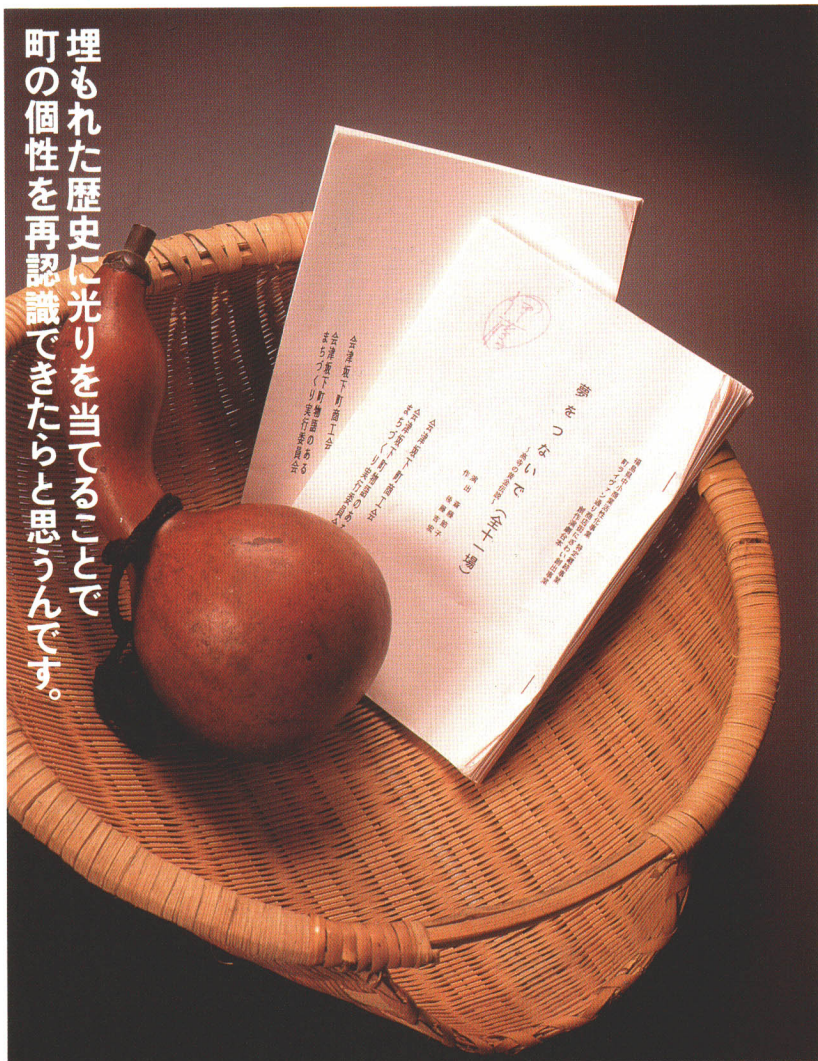
んな何かを……。メンバーたちの目標はすでに次へと向けられている。「水、流れざれば」で好評を博した後早速第二弾の創作劇の上演に向けての準備に取りかかったのである。

二作目のタイトルは「夢をつないで」。高寺地区に伝わる黄金伝説をテーマにした本格的なオリジナルミュージカルの。町のさまざまな催しの際に上演する予定で、日々練習を重ねている。

「一人でも多くの町民がこれを見て、町の歴史や自然、そしてこの町に生きることの素晴らしさを認識するきっかけにできたら嬉しいですね。」

会津坂下町の

将来を支える若者たちが集い、歴史を学び、知恵を出し合って創作する「物語」は今始まったばかり。これからどんな「物語」を創り、見せてくれるのだろうか。自問自答と試行錯誤を繰り返しながら、若者たちは今日もまた練習に汗を流している。



埋もれた歴史に光りを当てることで町の個性を再認識できたらと思うんです。